



想いをつなぐ  
持続可能な未来へ

## 未来へ続く、一本の道

本格的な夏の到来です。みかん畑では農家の皆様が炎天下で摘果に汗を流し、海では漁師の皆様が夜明け前から船を出し、太刀魚をはじめとする恵みを食卓へ届けてくれます。山も海も、いまの営みが明日の実りをつくる、そんな、汗の輝く季節です。

明日の実りを願う思いは、私も同じです。6月は、市議会6月定例会をはじめ、国・県への要望活動や全国市長会議と、有田市の未来に向けて奔走いたしました。

主たる要望は、国土交通省及び財務省に赴いた「国道42号有田海南道路」の早期全線開通です。この道路は、災害時に市民の命を守る「命の道」であり、観光や経済、そして物流を支える「産業の道」でもあります。

その先には、大きな挑戦があります。ENEOS和歌山製造所跡地への企業誘致です。同製造所では、SAF(持続可能な航空燃料)をはじめとする「未来環境供給基地」への歩みが進んでいます。

さらに、政府が進める「地域未来戦略」は、地方に新産業を生む国家プロジェクトです。また、本市

は経済産業省の「GX(グリーントランスフォーメーション)戦略地域制度」の有望地域に選ばれており、本選定への正念場を迎えています。

ここで鍵を握るのが、国道42号有田海南道路です。企業の進出には、人とモノが滞りなく動く道が欠かせません。道路が整えば誘致が進み、誘致が進めば道路の整備も後押しされる。道路と産業は、互いに支え合う“一本の道”なのです。

市民の皆様が地元で安心して働き、暮らせる未来へ。この好機を逃すまいと、必要な予算の確保に向け、国や県と緊密に連携し、一丸となって全力で取り組んでまいります。

この挑戦は、行政だけで成し遂げられるものではありません。皆様が有田市の未来を信じ、その魅力を語り合ってくださいること。それこそが、何よりの後押しとなります。共に、新たな未来へ歩んでまいりましょう。

引き続き、変わらぬご理解とご協力を、心よりお願い申し上げます。

有田市長 玉木 久登

## 「宮原小学校跡地複合公共施設」の愛称が「MifroM」に決まりました！



**MifroM**  
みふるむ

全国から寄せられた応募総数は475作品。北海道から沖縄まで、多くの方々に施設への期待を寄せていただきありがとうございました。

この愛称を考案されたのは、宮原町新町にお住まいの岩崎 由樹さん。

### 「宮原(M)から(from)未来(Mi)へ」

かつて子どもたちの学び舎として親しまれたこの場所が、有田市の新しい交流拠点として、未来へ向かって輝き続けてほしい。そんな思いが、ぎゅっと込められています。

◆コミュニティセンター、体育館は、今年10月供用開始予定。  
認定こども園は、令和9年4月開園予定です。

☎ 生涯学習課 TEL 22-3761

広告 市収入の一部とするため有料広告を掲載しています。 より良い広報づくりのため、皆様のご意見ご要望を経営企画課へお寄せください。



この広報紙は地球環境保護のために、  
植物油インキを使用しています。